

授業科目名 (英訳)		B4 病理学総論 <General Pathology>				担当者氏名	【責任者】 病態生物医学 教授 松田 道行		
配当学年	3年生	授業回数	58	開講期	春学期	授業形態	講義	※授業日時は学期前に別途配布する 「専門科目授業時間割表」に記載	
[授業の概要・目的]									
<p>【一般目標 GIO】 病理学とはヒトの病気の成り立ちを学ぶ「基礎と臨床の架け橋」となるコースである。授業は、総論(前期)と各論(後期)の二コースより構成されるが、この二つは縦糸と横糸に例えられる。総論では疾患が発生する基本原理を整理する。炎症あるいは腫瘍といった疾患の基本概念は、臓器ごとの特殊性はあるにせよ本質的な点においては同じである。病理学総論の授業では、疾患に関する用語・概念の習得を最も重視する。医学専門用語を正しく理解して使えることが、臨床科目の習得には必須であるからである。なお、本学の学生諸君に期待される使命を鑑みれば、英語の医学用語も同様に理解できるようになってもらわねばならない。また、すでに解剖学、組織学を学習したところであるが、病理学を学ぶ過程で復習を繰り返すことにより、各臓器の持つ組織構築と病態との間にどのような関連があるのかを認識してもらいたい。もちろん、病態を理解するためには、分子論的基礎に立つ生化学・生理学の知識もまた必要であり、こちらも折に触れて復習する必要がある。</p> <p>【行動目標 SBOs】 1) 病因に基づく疾患の分類ができる。 2) 疾患の構造基本単位が、遺伝子、蛋白質、細胞、組織、器官、そして個体の階層にあり、相互に密接な関連のあることを説明できる。 3) 各々の病態における組織学的変化を時空間的に述べることができ、その転機を説明できる。 4) 全身性病変、臓器局在病変について、病変分布、系統化の機構を説明できる。 5) ヒトの主要な疾患のコンセプトを説明できる 6) ヒトの病態解明へむけての基本的研究手法を理解し、病因解明への研究手法を提案できる。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>以下のような内容について、授業を行う予定である。</p> <p>細胞障害: 細胞障害の原因およびその形態変化 炎症: 概念、分子機構、および形態変化 組織再生: 概念、分子機構、およびその異常 代謝障害: 種類、分子機構 染色体異常 小児・新生児の疾患 循環障害: 循環障害の種類、その発症機構 高血圧: 疫学的知見、分子機構、および治療 神経疾患: 神経疾患研究の最前線 老化: 分子機構及び研究の最新知見 感染症: 種類およびその形態変化 免疫疾患: 種類および発症の分子機構 腫瘍: 種類、分子機構、および研究の最前線</p>									
※詳細は学期前に別途配布する「専門科目授業時間割表」冊子に記載します。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
<p>①学期末に実施する筆記試験を90%、レポートの成績を10%として評価する。合計点の60%以上をもって教科試験合格とする。 ②各講義あるいは実習に当たり、小テスト、レポートを基本的に毎回課す。 ③実習・本試験および教科・本試験を1回ずつ行う。なお、実習試験の採点は可否のみとする。 ④本試験をやむを得ぬ事情により受験することができなかった者は、欠席届(用紙は教務窓口に備付)に必要な事項を記入し、担当教員の承認を得たものを、教務窓口へ提出することにより、次回受験する試験を「追試験」として受験することができる。 ⑤本試験を不合格、又は欠席することにより、改めて試験を受験する場合、それ以降に受験する試験は原則として全て「再試験(可、不可で評価)」として受験する。再試験の受験には受験届提出は不要。追・再試験は筆記・実習とも冬学期に行う。 ⑥試験時あるいは採点時に発覚した不正行為に対しては厳正に処分する。</p>									
[教科書]									
Kumar, Abbas, Aster: Robbins Basic Pathology 9th edition, 2012. ELSEVER.									
この時期に英語の病理学の教科書を是非とも通読していただきたい。この時期の学生諸君に必要なことは、疾患の概念および専門用語を日本語と英語の両方で身につけることである。									
[参考書等]									
日本語の病理学の教科書については、病理学各論コース指定のものでよい。									
[その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)]									
<p>【連絡先】 本講義にかかる全ての問い合わせは、下記まで 基礎病態学講座病態生物医学 松田 道行 電話:075-753-4421 電子メール matsuda.michiyuki.2c@kyoto-u.ac.jp</p>									

B4 病理学総論

授業回数	月日(曜日)	時限	講義内容	担当者			講堂
				所属	職	氏名	
1	5月7日(水)	I	オリエンテーション	病態生物医学	教授	松田 道行	記念
2	〃	II	病理学序論	〃	〃	〃	〃
3	5月9日(金)	I	細胞傷害	〃	〃	〃	〃
4	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
5	5月12日(月)	I	炎症(1)	〃	〃	〃	〃
6	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
7	5月14日(水)	I	炎症(2)	〃	〃	〃	〃
8	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
9	5月16日(金)	I	代謝障害	メディカル イノベーション センター	特定 准教授	田中 智洋	〃
10	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
11	5月19日(月)	I	代謝障害(活性酸素)	名古屋大学	教授	豊國 伸哉	〃
12	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
13	5月21日(水)	I	炎症(3)	病態生物医学	教授	松田 道行	〃
14	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
15	5月23日(金)	I	染色体・遺伝子異常	病態生物医学	助教	平塚 拓也	〃
16	〃	II	小児・新生児の疾患	〃	〃	〃	〃
17	5月26日(月)	I	再生・治癒・線維化	病態生物医学	教授	松田 道行	〃
18	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
19	5月28日(水)	I	病理組織実習	神戸大学	講師	原 重雄	基三
20	〃	II	(炎症・代謝障害)	〃	〃	〃	四実

B4 病理学総論

授業回数	月日(曜日)	時限	講義内容	担当者			講堂
				所属	職	氏名	
21	5月30日(金)	I	循環障害(1)	病態生物医学	教授	松田 道行	記念
22	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
23	6月2日(月)	I	循環障害(2)	〃	〃	〃	〃
24	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
25	6月4日(水)	I	高血圧・動脈硬化	臨床研究 総合センター	教授	横出 正之	〃
26	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
27	6月6日(金)	I	神経疾患特論	生命科学 研究科	教授	垣塚 彰	〃
28	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
29	6月9日(月)	I	老化(その他)	メディカル イノベーション センター	特定 准教授	田中 智洋	〃
30	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
31	6月11日(水)	I	感染症・免疫(1)	病態生物医学	助教	平塚 拓也	〃
32	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
33	6月13日(金)	I	感染症・免疫(2)	〃	〃	〃	〃
34	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
35	6月16日(月)	I	病理組織実習	〃	〃	〃	基三
36	〃	II	(感染症・免疫・循環障害)	〃	〃	〃	四実
37	6月20日(金)	I	病理組織総論・試験	病態生物医学	教授	松田 道行	〃
38	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
39	6月23日(月)	I	腫瘍生物学入門	腫瘍生物学	教授	小川 誠司	記念
40	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃

B4 病理学総論

授業回数	月日(曜日)	時限	講義内容	担当者			講堂
				所属	職	氏名	
41	6月25日(水)	I	腫瘍(1)	同志社 女子大学	教授	高橋 玲	記念
42	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
43	6月27日(金)	I	腫瘍特論(1)	腫瘍生物学	教授	小川 誠司	〃
44	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
45	6月30日(月)	I	腫瘍(2)	同志社 女子大学	教授	高橋 玲	〃
46	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
47	7月2日(水)	I	腫瘍(3)・腫瘍論実習	〃	〃	〃	〃
48	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
49	7月4日(金)	I	腫瘍特論(2)	腫瘍生物学	教授	小川 誠司	〃
50	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
51	7月7日(月)	I	腫瘍(4)	同志社 女子大学	教授	高橋 玲	〃
52	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
53	7月9日(水)	I	腫瘍(5)	〃	〃	〃	〃
54	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
55	7月11日(金)	I	腫瘍特論(3)	腫瘍生物学	教授	小川 誠司	〃
56	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
57	7月14日(月)	I	試験			教員全員	四実
58	〃	II	〃			〃	〃